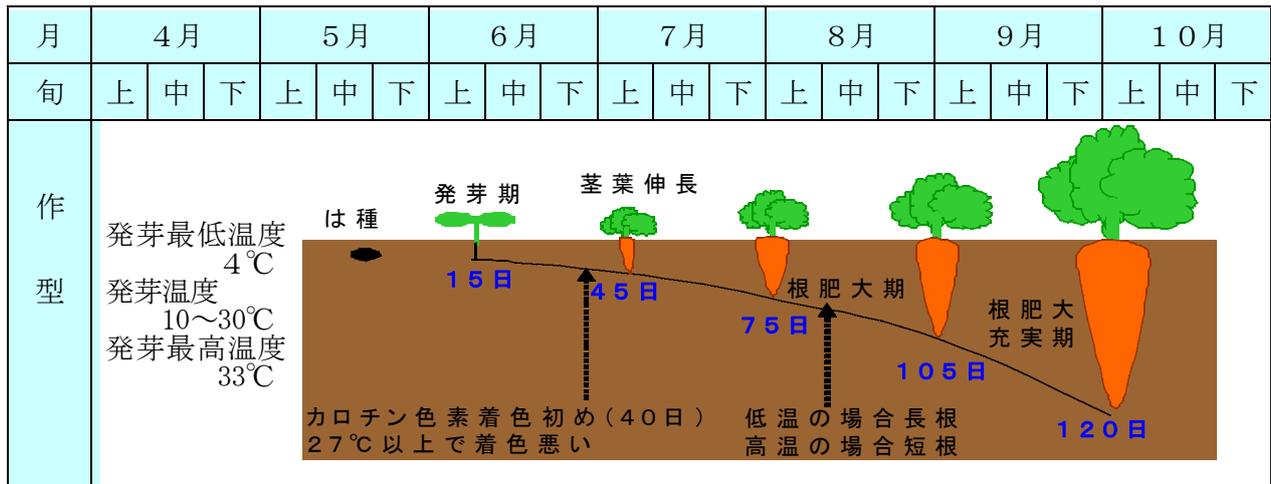


にんじん (セリ科)



にんじんは冷涼な気候を好み、生育適温は13~23℃です。12℃以下の低温では肥大が鈍り、着色不良となります。一方、高温でも根の肥大は停滞し、根形が乱れます。

にんじんの生育日数は120日前後（上の図参照）ですが、当地域では冷涼なため、生育日数が10日位遅れます。

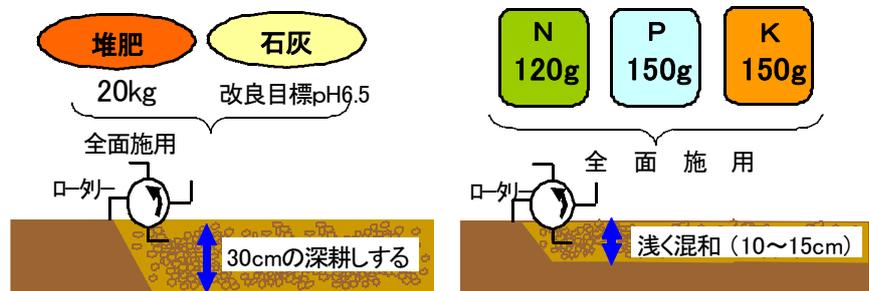
表1 主な品種

品種名	肥大の 早晚	抽苔の 早晚	肉色	心色
向陽二号	やや早	やや早	中濃	中
ベーター312	中早生	遅	中濃	中
千浜五寸	やや早	中	中濃	中
陽明五寸	早	中	濃	中濃
ひとみ五寸	やや早	中	濃	中濃
里紅	やや早	遅	濃	中
寒太郎五寸	やや早	中	濃	中
紅太郎	やや早	中	中	中

1 栽培管理

①畑の準備

- 透排水性を良くし、作土層30cm以上確保します。完熟堆肥（堆肥は前年施用が望ましい）を入れ深耕します。
- 種子直下の施肥は発芽不良、分岐根の原因となるため全層施肥とします。



②は種

- 覆土は1cm前後としますが、土壌が乾き気味の場合はやや深めに覆土した方が発芽が揃います。発芽は通常10~14日程度ですが、地温10℃以下では発芽まで長時間を要します。

③管理

- 間引きは、本葉4~5枚（は種後40~50日）のときに行い、6葉期までに完了します。間隔は畦幅30cm×株間10~12cm、やや広めにした方が病害の発生が少ないです。
- 培土は、間引き後、中耕をかねて軽い土寄せを行います。本培土は7~8葉期（は種後60~70日）に、首部が1~2cm隠れる程度に土寄せを行います。土寄せが不十分だと、根の肩部が露出し、日焼けによる青首が発生します。
- 裂根などの根部異常は、生育前半の乾燥、後半の多湿と土壌水分の急激な変化や、初期生育の不良から起こるので、初期からの順調な生育が必要です。
- 主要病害虫は、黒葉枯病、乾腐病、キタネコブセンチュウ、キタネグサレセンチュウなどです。防除は輪作、排水対策が基本です。

2 収穫の目安

- 収穫期は、は種時期と気象で大幅に変動します。目安としては、は種後120~130日です。
- 収穫適期を過ぎると裂根が多くなるので注意します。